

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「共に伸び 共に輝け 感謝・感動 しなやかえだわん」
 ○生き生きと、主体的に、粘り強く、学び続ける力を育てます。(知)
 ○人を思いやる優しさ・豊かな感受性・正義感を備えた実践力と、自律的態度を育てます。(徳)
 ○運動に親しむ態度と、しなやかでたくましい、健やかな心身を育てます。(体)
 ○地域や社会と積極的に関わる態度、利他・公共の精神を育てます。(公)
 ○個々の違いを尊重し認め合い、将来の目標をもって明るい未来を開く行動力を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈心身共にたくましく生きる力〉 〈自分づくりに関する力〉 〈問題発見・解決能力〉	具体化した資質・能力
	〈自らの心身の健康を管理し改善する力〉 〈健康な生活を営むための基本的な生活習慣〉 〈夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢〉 〈他者を理解する態度・自己を理解する姿勢〉 〈共生社会を形成しようとする意識〉〈解決策を実行する力〉〈試行錯誤する力〉

中期取組目標

○自己肯定感・他者肯定感・「えだわん」肯定感を向上させます。
 ・主体性を引き出し、達成感を味わえる授業創りをします。
 ・自他の違いを認め、長所に気付く、感謝できる子を育てます。
 ・「早寝・早起き・朝御飯」を実践し、運動に親しむ心を育てます。
 ・地域(人)とつながり、地域を大切に育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①子供たちが主体的、対話的に学び、自ら学力を向上させる授業を実現するため、年間一人3本の授業提案と、各提案から学んだ要素を反映させる研修を実施する。②児童一人一人の「分かった」「できた」「頑張った」を引き出し、深い学びが得られる授業を目指した教材研究の時間をシステム化する。
担当	生き生き学習部

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
4月の学習指導を終えた各学級担任に、児童の学習意欲についてヒアリングを行ったところ、共通の課題が浮かび上がった。 最優先で改善に向かいたい課題が、学習における指示理解や文章読解、グラフ読み取り能力等の学習の基盤となる力の不足である。苦手意識も作用し、しっかりと聞くことを通して理解することをあきらめ、じっくり読むこともせず、時間の経過を待つ姿も見られる。このような傾向から、学習を楽しみ感じない児童の割合が少しずつ増えてきている。 続いて、自分の考えをもつことに、必要以上に高いハードルを設定してしまうことや、発信することに抵抗感をもつ課題があげられる。発言する児童が固定化されたり、グループで話し合いの時間を設けることで、多少は発信する機会が増えたとしても、その話し合いを通して考えを深めることができなかったりする。これらの実態は本校の児童が学力向上に向かうためには、確実に乗り越えなければいけない壁である。また、発信する機会が増し、学習へ主体的に参加する時間が増え、自己有用感も高まれば、学習は面白いものだと感じる児童は増えていくと考える。 最後に、学習に向けた準備や規律に関する課題である。授業開始時刻を意識して学習用具の準備を行っていない様子が見られる。苦手意識のある学習への取り組み意欲が著しく低下したり、話すだけ話して、友達や教員の話聞く態度が十分でなかったりする姿も見られる。 一方、よさについても上がってきている。それは、児童一人一人の素直さである。教員からの称賛には、笑顔で嬉しさを表し、一時的ではあるものの頑張ろうという意欲を見せる。友達が抱える、多様な課題に対しても、分かるように説明しようしたり、待とうとしたりするなど、寛容な態度で向き合う姿が見られる。これらのよさは、課題の改善に向けて大いに発揮し、伸ばしていくことが重要である。 これらの実態に対し、本校の全教員は「えだわんブライド」をもち、今年度掲げる目標達成に向かう。	教員一人一人が自分や子供と本気で向き合い、授業作りに工夫して取り組んだり、学習指導力を向上させたりして、子供が「学校って楽しい！」「学習って面白い！」と思えるようにし、基礎学力の定着及び向上を図る。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	まずは、教員一人一人の授業改善を目指す。えだわん研を通して、教職員同士が共通の関心をもとにチームを組み、全員が主体的に研究することができるようにする。各チームは、個人が設定した研究テーマに基づき、子供が学習の面白さを実感したり、分かりやすいと感じたりするような授業作りを行う。また、メンターチームとの連携を通し、必要感に応じた研修を行いつつ、教員としての資質・能力を獲得し、引き上げることを目指す。 次に、言語能力や情報活用能力といった学習の基盤となる力の育成を目指す。教科等の単元における導入やゴールの工夫により、学習への期待を高められるようにし、指示の明確化や課題解決の見通しもてるようにする。その上で、スモールステップや情報の可視化を意識した授業作りの工夫を行い、各単元を通して系統的に資質・能力の育成を目指す。 さらに、学習をより魅力的なものにするという本質的な指導改善に加えて、教員の意図的な指名や、小グループや学級での話し合いの仕方の指導の充実を目指す。自分の意見をもつことのハードルを無くし、話し合うことの楽しさを実感できるようにする。 最後に、本校児童のよさである素直さを生かし、頑張りを称賛したり、友達と支え合ったりする場面を積極的に設け、授業は自分や友達が成長する場であることを自覚させることで、その場に合ったふさわしい態度をとれるようにすることを目指す。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①実効力のある道徳教育を目指し、特別の教科道徳の年間指導計画の見直しを継続する。また、互いの意見を受容しながらも本音と議論がある学習活動を取り入れ、豊かな心の育成につなげる。②小中ブロックで取り組んできた挨拶運動の在り方を工夫し、児童が自分から挨拶する習慣と態度の定着を目指す。
担当	豊かな心育成部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
①道徳教育については、昨年度、道徳科の年間指導計画及び、別業の見直しを行った。道徳科の授業がより各教科等とのつながりがあるものに改善されている。また、道徳部を中心に、効果的な授業の方法を提示し、児童が「我が事」として道徳的価値について考えたり、自分の考えを深めたりする場面が増えてきている。 しかし、児童が道徳的価値を基に本音で語り合ったり、議論したりする場面はまだあまりない。それに伴い、児童も、自分の本音が仲間を受け入れられないのではないかと不安を感じている様子や、自分の考えと違う考えに強く反論してしまう様子も垣間見られる。 そこで、今年度は、道徳科の授業のみならず、各教科等の活動で本音で語り合い、議論する機会を増やしていくことが大切であると考え。また、学年、学級経営において、児童が互いの考えを受け入れようとする環境を築いていくよう、より意識し改善していく必要がある。 ②挨拶については、昨年度も児童運営委員会の児童が中心となって「あいさつ運動」を行ってきた。その活動では、児童はしっかり挨拶ができていると捉えている様子が見られたが、その捉えは職員や地域の捉えとは食い違っている。 これは、昨年度の「あいさつ運動」では、友達に対してできているかという視点で多くの児童が取り組んでいたからであると考えられる。児童にとって関係が薄いと感じている人に対しては進んで挨拶をすることができていない。また、学校生活を支えている地域の方々の名前を覚え、人柄を知る機会が少ないことも原因のひとつと考えられる。学校生活がおおくの仲間や地域の方、職員に支えられていることを実感することで、進んで挨拶し、よりかかわりを深めようとする姿勢に変わると考えられる。	①多様な考えのよさを認め合うための道徳科の授業の充実 ②挨拶を通して仲間や地域とのかかわりを深めようとする児童の育成
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・道徳科のみならず、各教科等の活動で、児童同士が語り合い、議論する場を多く取り入れる。また、各学年、学級に応じた話し合いを深めるための方法やルールを提示し、どの活動でも児童が安心して自分の考えを伝えられるようにする。 ・えだわん研や道徳科の授業公開を通して、児童同士が語り合い、議論するための有効な手立てを提案し合い、共有することで、各学級の話し合い活動を充実させる。 ・道徳通信を発行し、他校の研究授業や実践提案等で見られた効果的な指導の手立てを共有する。
下半期	・「あいさつ運動」では、他学年や地域の方、職員に対して進んで挨拶できるような方法を取り、挨拶する相手を広げていく。 ・集会や、感謝の会、生活科、総合的な学習の時間等を活用し、学校生活を支えている方々を知り、触れ合う機会を増やすことで、自ら進んで地域の方々とかかわろうとする態度を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①運動の苦手意識を軽減し、楽しさを感じられるように、休み時間の用具の貸し出しや体育館の開放、運動委員会が企画する集会によって、運動の機会を定期的に提供する。②早寝・早起き・朝御飯を実現に向けた取り組みとして、今年度は朝食喫食率の向上を目指し、学校保健委員会を中心とした食育指導を充実させる。
担当	健康・体力充実部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
学年が上がるにつれて運動が「めんどくさい」「できない」という苦手意識をもつ傾向がある。児童の意識として「もっとやってみよう」と思える人そうでない人の差があるように感じる。また、外遊びを好む児童と内遊びを好む児童のメンバーが変わらない実情がある。しかし、教師が外で遊ぶことにより一緒に遊ぶ児童はいる。 委員会等で企画していた体力づくり週間や長縄集会などが実施できなかったこともあり、みんなで運動する楽しさが感じられていないように感じる。 また、市生活調査や本校独自の生活アンケートからみえた本校の健康課題として、朝食では、朝食の欠食率が全校児童の6%（市平均2%）、孤食が全校児童の20%、炭水化物の喫食率が60～70%程度に達し、タンパク質や食物繊維等は40～40%程度に達していること等が挙げられる。睡眠では、低学年の就寝時刻は市平均より1～2時間遅く、高学年の就寝時刻は1～2時間遅く、全校児童の20%、高学年の約40%が23時以降に就寝している。23時以降に就寝している児童の半数以上が2時間以上ゲームや動画を見ていること等が挙げられる。最後に運動では、1日に全く運動をしていない児童が8%、特に「マント運動が苦手」と答えた児童が学年によっては40%を超え、1日に運動を2時間以上する児童と、30分未満の児童の二極化が学年が上がるにつれ高くなること等が挙げられる。さらに、これまで生活習慣について、健康課題を分析し、改善のための学習や実践を経験していないため、特に低学年の生活習慣に対する知識や意識は、各家庭の実態よるところが大きく影響している。そのため、児童間での差が生じている現状がある。	①体を動かす楽しさに触れ、運動意欲を高められるようにする。 ②朝食の大切さを知り、生活習慣の向上を図る。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・子供の目指す姿を明確にした単元構想、場の設定、教え合いの機会、中間のふり返り、技・面や思考面を促す仕掛け、を意識した授業づくりをしていく。 ・中休みや昼休みに、校庭や体育館を上手に活用し、様々な運動に親しめるような機会を意図的に作る。 ・運動委員会や集会委員会が集会を企画して、学年やペア学年などで運動ができる機会をつくり、集団で遊ぶ楽しさを知る。 年2回の学校保健委員会では、「睡眠」「運動」「食事」の3つの軸を3年計画で進めていく。今年度は「食事(朝御飯)」に主軸を置き、第一回では、朝御飯の大切さや簡単・手軽にバランスのよい朝ごはんを食べられる工夫等を地域の栄養士を招き講話をしていただく。事前に児童、保護者向けにアンケートを募集し、困りごとや実践している工夫等を聞き、学校全体で共有する。また、学校で実現可能な指導として、給食部や栄養士と連携を図り、給食を用いた食育指導を実践することにより、「バランスのよい食事」をより深められるようにする。さらに、保健だよりや集会、掲示物等で全校児童、保護者へ情報共有と啓発活動を行う。
下半期	